

Global Express

SAMPLE vol. 12 2010 May, FIFA World Cup South Africa

グローバル・エクスプレス サンプル版第12号 2010年5月10日発行

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複写・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複写による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

2010 ワールドカップ

2010年6月から、南アフリカでFIFAワールドカップが開催されます。これを機会に、南アフリカという国について興味を持ってみましょう。また、グローバルな視点から国民・国籍などについて捉え直し、移民、民族・人種差別などの諸問題について考えてみましょう。

アクティビティ1: 南アフリカと自分の“距離”を感じる

◆目的:

- ① 南アフリカの地理的理解を深める。
- ② 南アフリカと日本に関する情報を共有し、南アフリカに関心を持つきっかけとする。

◆対象: 小学校高学年以上

◆所要時間: 20~30分程度

◆資料・備品: 世界地図 (または地球儀)

◆すすめ方:

- ① ファシリテーターは以下の質問をなげかけ、学習者は挙手したり、会場の中を移動して回答に合わせて分かれたりする。その後、学習者から知っていることや、体験したこと、聞いたことのあるニュースなど、自由に発言してもよい。

Q1. 南アフリカに行ったことのある人は?

Q2. 南アフリカに行ったことのある人に会ったことがある人は?

Q3. 南アフリカに関連のあるものを身につけている人/日常的に使っている人は?

※南アフリカから日本へは、金やダイヤモンド、レアメタル (携帯電話やコンピュータに利用されている希少金属)、ワインなどが輸出されています。日本は南アフリカの輸入・輸出ともに主要貿易相手国となっています。

Q4. 南アフリカと自分の“距離”は遠いと思う? 近いと思う?

- ② 小グループになり、「どうして遠く/近く感じるのか」を話し合い、全体で共有する。日本からの物理的な距離が同じくらいの国 (例: 米国) と比べて、感じ方の違いがあるかどうか話し合ってみてもよい。

世界地図: <http://www.sekaichizu.jp/>



Copyright(C) T-workdatas All Rights Reserved.

◆参考資料－日本との“距離”は？

	南アフリカ	アメリカ	備考・出典
日本からの距離	13,500 km (ヨハネスブルグ)	11,000 km (ニューヨーク)	
日本との時差	- 7時間 (ヨハネスブルグ)	- 14時間 (ニューヨーク)	
日本からの飛行時間 (6月1日/最短)	18時間50分(ヨハネスブルグ) シンガポール経由 シンガポール航空	12時間45分(ニューヨーク) 直行便 ANA	「エイビーロード」ホームページ内 「国際時刻表」 http://www.ab-road.net/
航空券正規料金 (6月/エコノミー)	311,400円	306,400円	「ANA」ホームページ http://www.ana.co.jp/
格安航空券 (6月/エコノミー)	60,000円 タイ国際航空 バンコク経由	67,000円 デルタ航空 直行	「HIS」ホームページ http://www.his-j.com/
在留邦人	1,357人	386,328人	外務省/2008年
在日当該国人	592人	52,683人	外務省/2008年
訪日旅行者数 (2000年)	4,476人(0.1%)	72,5954人(15.3%)	カッコ内は訪日旅行者に占める割合
日本人旅行者数 (2007年)	31,855人	3,531,489人	「日本旅行業協会」ホームページ http://www.jata-net.or.jp/

アクティビティ2: クイズ！南アフリカ

◆目的：南アフリカの文化や歴史を知る。

◆対象：小学校高学年以上

◆所要時間：20～30分程度

◆資料・備品：ワークシート（次頁掲載）、世界地図（または地球儀）

◆クイズ1：南アフリカの国旗はどれ？

ワークシート（次頁掲載）の国旗を配布して、グループで答えを推測する。

<答え ②>

- ① カメルーン：中部アフリカの国。日本代表と同じE組に出場。アフリカの色（緑、赤、黄）を使っている。
- ② 南アフリカ：1994年にアパルトヘイト（人種隔離政策）の廃止とともに制定された国旗で、「レインボーフラッグ」とも呼ばれている。非公式に、赤色は独立のために流された血の犠牲を、黒と白は黒人と白人の平等を、緑色・黄色・青色はそれぞれ農業・鉱業・漁業の豊かさを表わしているといわれている。1994年以前の旗には宗主国のイギリスやオランダの国旗も描かれており、国旗の変遷をたどりながら、南アフリカの歴史を知ることできる。
- ③ アルジェリア：北アフリカの国。中央の三日月はイスラムのシンボル。C組に出場。
- ④ ガーナ：西アフリカの国。D組に出場。アフリカの色（緑、赤、黄）と、中央の黒い星はアフリカの自由を表現。

◆クイズ2：ワールドカップ2010のマスコットキャラクターはどの動物？

以下の5つの動物から、グループで答えを推測する。

- ①ゾウ ②バファロー ③ライオン ④ヒョウ ⑤サイ

<答え ④>

選択肢にあげた5つの動物は「ビッグ・ファイブ」と呼ばれるサファリの代表的な動物たち。ヒョウの「ザクミ (ZAKUMI)」が公式マスコットとなっている。南アフリカを表す国名コードの「ZA」と、アフリカ大陸の複数の現地語で大会の開催年である「2010年」の「10」を意味する「KUMI」を組み合わせた造語。民主化が達成された1994年生まれ。髪はピッチの色と同じ緑色。

1



2



3



4



©DEAR 開発教育協会

アクティビティ3: 出場32か国のあれこれランキング

ワールドカップに出場する32か国の基本情報を数字から捉えてみましょう。

- ◆目的: 参加国に関する統計を読み込んだ上で、参加国の中の多様性や格差に気付く。
- ◆対象: 小学校高学年以上
- ◆所要時間: 20~30分程度
- ◆資料・備品: ワークシート(別添1)、世界地図(または地球儀)



◆おすすめ方:

- ① ワークシートを1人に1枚ずつ配布し、1~7までの表がなんの順番で作成されたものかを予想する。
- ② 学習者の様子に合わせて、単位などヒントを与えたり、小グループになって話し合ったりする。
- ③ 答え合わせをして、意外だったこと、難しかったものなどについて感想を言い合い振り返りをする。

◆ワークシート回答:

- ① FIFA ワールドランキング (単位: 位)
- ② 人口 (単位: 人)
- ③ 平均寿命 (単位: 年)
- ④ 1人当たりエネルギー消費量 (石油換算/単位: kg)
- ⑤ 名目GDP (単位: 米ドル)
- ⑥ FIFA ワールドカップ出場回数 (単位: 回)
- ⑦ 移民の割合 (単位: %)

データ出典

②③④世界人口白書 2009

http://www.unfpa.or.jp/publications/swop/swop2009/2009_all.pdf

⑤国際貿易投資研究所 <http://www.iti.or.jp/>

⑦International Migration 2009

<http://www.unmigration.org> ※英語のみ

アクティビティ4: 日本代表チームをつくろう!

各国代表各国代表（厳密には協会単位なのでイングランドのように必ずしも国代表でない場合があります）がしのぎを削るワールドカップ。しかし、「国」代表といってもほとんどのチームが様々な民族・人種の選手で構成されています。自分であればどういう基準で代表チームを選考するか、考えてみましょう。

◆目的:「国籍」にまつわる議論を通して、現在起こっている人種差別や外国人排斥についての問題を考える。

◆対象: 中学生以上

◆所要時間: 30~60分程度

◆資料: ワークシート（別添2）、関連する新聞記事

◆すすめ方:

- ① 代表選手の選考に関して、人種差別や外国人排斥があったケースの新聞記事を読み、小グループや全体で感想を共有する（ワークシート「わたしの気持ち」を使ってもよい）。
例: 朝日新聞 2010年1月26日(火)「ブラジル人FWに国内賛否イタリア代表選考人種問題の暗い影」
<http://www.asahi.com/worldcup/world/TKY201001260173.html>
- ② AからXまでのカードセットを各グループにわたし、自分が日本代表チームのメンバーを選考する場合、どういった基準で選ぶのかを話し合う。
- ③ 「条件としてあったほうがいい／必要ない」などの項目で分け、模造紙などの大きな紙にまとめ、グループ毎に発表する。
- ④ 各グループの代表選考の発表を聞き、分類の理由や意見が分かれた部分などに注目しながら、感じたことを全体で共有する。その場の感想・意見などを大切に、サッカー、スポーツのありよう、関連する様々なテーマ・時事的話題などに触れてもおもしろい。賃金格差・外国人差別・愛国心・国籍・外国人労働者・移民など、つながる話題はとても多い。

◆参考データやふりかえりのポイント(アルファベットはカードに対応しています):

A. 日本語が話せる

→日本でも地域によっては多言語化が進んでおり、小中学校などでその対応が求められている。「日本では日本語」が「当たり前」とは言えない状況がある。

B. 日本文化に通じている

→「日本の伝統文化」尊重が主張される傾向が各方面で続いている。2006年に改正された教育基本法でも「日本の伝統・文化の尊重」が盛り込まれた。公立高校ではいくつかの自治体で日本史の必修化、「日本文化」といった授業の導入を教育委員会が推進している。

C/D. 父親だけ／母親だけが日本人

→昭和59年の国籍法改正以前は「父系血統主義」（改正前の国籍法第2条）とあって、父親が日本人であれば日本国籍が取得可能という方針であった。しかし、この場合、父が厳格な生地主義をとる国の国民の場合、日本で生まれた子供は無国籍になる問題などから、現在は、「父母両系血統主義」に抜本改正されている。

F. 配偶者が日本人である

→今回のワールドカップでその所属が大きな問題となっているアマリ選手。彼は両親も祖父もブラジル人（「イ

タリア人の血は流れていない」という言い方もありうる）。しかし、妻がイタリア人であるためイタリア国籍取得が可能であり、取得間近と報道されている。彼のイタリア代表入りにチーム、国内に反感がある一方、ブラジルからナショナルチームへの招集の可能性がないことから、彼自身はイタリア代表入りを希望している。

G. 二重国籍で日本の国籍がある

→移民・外国人労働者の多い諸外国は、一般に国籍に関する規定が緩く二重国籍を持つ者も多い。有力な選手が二重国籍を持っているとその選手がどこの国籍で大会に出場するのか（できるのか）が重大な問題となる。ワールドカップではないが、バンクーバーオリンピックで活躍したフィギュアスケートの長洲未来選手は日米両国籍を持っており、スケート界において強豪ひしめく日本ではなくアメリカからの出場を選んだとされている。ちなみに、オリンピックの場合、二つ以上の国籍を持つ場合は自分で参加国を判断することができる。また、ある国を代表して国際試合に出場後に国籍変更した場合は3年以上立てば五輪に出場できるが、両国オリンピック委員会、国際競技連盟の同意を得ればこの期間を短縮・解消できるなどの取り決めがある。

H. 強烈なシュートがうてる

→まさしく、スポーツ界の流れは「能力の高い者を国籍の壁を低くして自国に招き入れる」方向にある（先端を走っている分野かもしれない）。高度な技術を持つ移民・外国人労働者の選別的導入は様々な分野で広がる傾向にあり、グローバルエリートと単純労働者の格差は、世界的な問題とも捉えられる。サッカーにおいて人材輩出国となっているのはもちろん、ブラジルである。

I. 日本に帰化している（日本の国籍を持っている）

S. 善良で素直な人物である

Q. 名前が漢字・カタカナ・ひらがなで表記されている

→外国国籍の者が日本代表になるためには、国籍を変更する（帰化する）必要がある。帰化するためには「5年以上日本に住所を有すること」「素行が善良であること」などの要件を満たさなければならない。また、帰化申請の内容が認められた場合、氏名表記には外国文字（アルファベット・ハングル等）は用いられず、日本語（漢字・平仮名・カタカナ）に置きかえられて表記される。田中マルクス蒯莉王、三都主アレサンドロなどの選手はその代表。大相撲の朝青龍・白鵬をマスコミが扱う時の「品格」も「善良で素直な人物＝日本人」といったとらえ方とどこかでつながっているかもしれない。また、帰化の申請には実質的に書類作成のため平均 25 万円程度の費用がかかる。様々な意味で「日本人になる」ことはたいへんである。

O. 他国のサッカー代表になっていない

→FIFA の規定では一国の代表としてプレー経験がある選手は他国の代表としてプレーできない。ただ、2004 年に二重国籍を持つ選手に関する次のようなルール変更が行われている…「ある国のユース代表として出場した場合でも、フル代表として試合に出場した経験がなければ、21 才未満の選手に限り一回だけ別の国の代表選手として登録変更できる」「21 才以上でも FIFA が承認してから一年以内にその権利を行使すれば代表チームの変更が認められる」「二重国籍を持つ選手が強制的にある国の代表に選ばれた場合は、年齢に関わらず別の国の代表選手として登録変更できる」。このことによって、ヨーロッパに渡った有力な選手の中でアフリカにアイデンティティーを持つ選手の母国帰りの可能性が生まれ、実際に活躍し始めている。

P. 国歌を歌うことができる

R. 顔・格好が日本人らしい

U. 日本的な肌の色である

→前回のワールドカップでは、ポルトガル代表のデコ選手がブラジルから帰化した際にポルトガル代表選手から「国歌も歌えないヤツは代表に来るな」と言われ、問題になった。彼は、ちなみにインド系の血も引いており、その容ぼうが日本人にとっても似ていると言われている。ヨーロッパでは、フランスを代表にチームの多国籍化、多民族化が進む一方、それに対する反発・差別が話題になることも少なくない。日本では、都立高校において国歌斉唱が義務化され議論になっている。日本にも「日本人なら国歌は歌うべき（歌えるはず）」という考えがある。

T. 日本を愛している

→少し下火になってはいるが「愛国心」とは何か考えてみよう。まだまだホットな話題。

V. 日本に留学している

→国体には留学生は出られない。ただし、国体よりはるかにメディアでの露出度の高い学生スポーツでは外国人留学生の活躍が広まっている。箱根駅伝、高校野球、サッカーなどのスポーツでは留学生の存在は当たり前になっている。しかし、そのことに対する反発もあり、規制も強まっている。たとえば、箱根大学駅伝の外国人留学生の出場について「予選会、本大会ともエントリーは 2 人までで出場は 1 人に限る」と 2005 年から規定されている。また、2007 年から全国高校駅伝の「1 区」で外国人留学生が走ることを全国高等学校体育連盟（高体連）が禁止している。理由は、留学生が序盤から大きくリードし、レースを決定づける展開が目につくためと言われている。ネット上の議論をながめると、（感情的な面も含めて）ワールドカップの国籍に関する議論ととてもよく似ていて興味深い。

L. 3年以上、日本でプレーしている

M. 日本で税を納めている

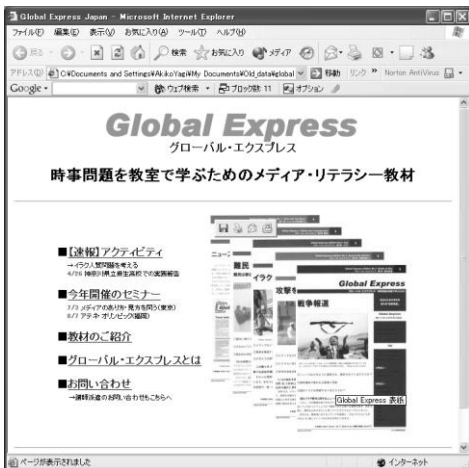
J. 在留資格を持っている

W. 現在、日本に住んでいる

→違法滞在ではあるが、生活に密着し、国内の人材としてなくてはならない人たちがいる。アメリカにいるヒスパニックやヨーロッパ諸国のアフリカ系などの問題と考えることができる。また、在留資格を持ち合法的に滞在する外国人労働者も景気がよい時は重宝がられるが、不景気になった途端に「厄介者」扱いされ排除の対象となることも少なくない。まじめに働き税を納め、社会に貢献しても「国民」として容易に受け入れてもらえない現実が世界各地にある。外国人参政権の問題なども考えることができる。

ワールドカップのあり方は、歴史的経緯、政治・時代の流れを強く反映しています。

各国の代表選手は「サッカーに関して優れた力・技能を持っている」「監督に認められ、選ばれている」「ファンから支持されている」だけではなく、選手が属する「国家」の法律や「国民」のコンセンサスをクリアすることで選抜されています。そういう意味で「代表選手のあり方」は、国のあり方や国民の心性、これから世界の向かう方向をうつしだす「鏡」になっているのです。



■レポート、感想をお寄せください

<http://www.dear.or.jp/ge/>

ウェブサイトからの教材ダウンロードも、とても多くの方にご利用いただいています。タスクチームでは、教材をご覧になった感想や、レポートを募集しています。「こう使った」「ここが使いにくかった」「こんな風に应用させた」等々、どんなことでも結構です。実践報告をウェブサイトの「実践レポート」コーナーに掲載することもできますので、ご希望の方は下記 DEAR 事務局(担当:八木)までご連絡ください。

☎ 03-5844-3630 ✉ main@dear.or.jp

■ グローバル・エクスプレス日本版 第1号～5号 好評領布中！

教育の現場で活用できるアクティビティが詰まったグローバル・エクスプレス。ぜひセットでお求めください。

セット:会員価格 1,600 円、一般販売価格 2,000 円

- 第1号 ニュースに耳を傾ける(基本編)
- 第2号 攻撃を超えて(9.11 同時多発テロとイスラム)
- 第3号 難民(難民、日本における難民政策)
- 第4号 イラク(イラク問題、紛争の解決)
- 第5号 戦争報道(イラク戦争と報道)



→ 「グローバル・エクスプレス サンプル版」について

- ・グローバル・エクスプレス・タスクチームが時事問題をテーマにした教材を速報アクティビティとして提案します。
- ・速報アクティビティへのご意見・ご提案・実践報告は大歓迎です。
- ・今年度、グローバル・エクスプレス・タスクチームには、ほとんど活動予算がありません。ご寄付も歓迎します。(ご寄付は、セミナー開催費用、冊子印刷費用、HP維持費、資料購入費などに利用いたします)

→ この教材のご利用について

この教材の著作権は(特活)開発教育協会に所属し、本誌の全部または一部を無断で複製・転載・引用・要約することは禁じます。本誌の「生徒用ワークシート」の複製による利用は、学問的な利用、教室・研究会等での利用に限ります。

特定非営利活動法人 開発教育協会(DEAR)

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41 富坂キリスト教センター2号館3階

Tel: 03-5844-3630 Fax: 03-3818-5940

E-mail: main@dear.or.jp URL: <http://www.dear.or.jp>